

基本練習問題 5-2

<解答>

(1)	5/15	(借)	外注加工賃	50,000	(貸)	現金	98,000
			水道光熱費	48,000			
(2)	5/31	(借)	仕掛品	48,000	(貸)	外注加工賃	48,000
			製造間接費	63,760		水道光熱費	63,760
(3)	5/31	(借)	製造間接費	200,000	(貸)	減価償却累計額	200,000
(4)	5/31	(借)	製造間接費	1,200	(貸)	材料	1,200

【解説】

(1)で支払った電気料金は、4月分(4/1~4/30)であるため、原価計算上の電気料金の発生額(月初から月末まで)と一致するが、外注加工賃は4月11日~5月10日までの発生額であるため、原価計算上の外注加工賃の発生額(月初から月末まで)とは一致しないことに注意する。なお、解答上、特に支障がない事項だが、電気料金は、(2)より月末の操業終了後すぐに電力メーターを検針していることから、月初から月末までの電気料金であることがわかる。

(2)で仕訳した金額が原価計算上の5月分の外注加工賃と電気料金の発生額だが、どちらも金額を算定するために簡単な計算が必要になる。外注加工賃は(1)の当月分請求額(50,000円)に当月未払分(7,000)円を加算し、前月未払分(9,000円)を減算する。これにより、原価計算上の外注加工賃の発生額に修正する。また、電気料金は今月のメーターの検針値から前月のメーターの検針値を差し引いた数字が5月の電気使用量となるので、これに基づき、基本料金+従量料金を次のように計算する。

$$10,000 + 32 \times (9,790 - 8,110) = 63,760 \text{ 円}$$

(3)減価償却費が年額で与えられているので12で割って月額に修正する。

(4)帳簿棚卸数量と実地棚卸数量より棚卸減耗損を次のように計算する。

$$(10,400 - 10,360) \times 30 = 1,200 \text{ 円}$$